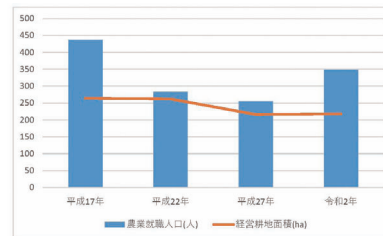


地域とつながる、農ある暮らし。

農業は私たちの暮らしを支える大切な産業ですが、全国的に農業従事者の高齢化や後継者不足が進み、鳩山町でも平成17年から令和2年までの15年間で、就農人口や耕作面積が減少しており、担い手不足や耕作放棄地の増加が課題となっており、都市部から移住し



▲農林業センサス(出典:農林水産省)

て就農する人や二拠点居住、週末に鳩山に訪れ農業を行うなどして、農業に携わる人が増えています。町では農業の新たな担い手の確保に向け、農地バンクによる農地のマッチングや、初心者でも農業を始めやす



いふれあい農園(貧農園)の運営など、農業に親しみつつかけつくりを進めています。また、地元農家による技術指導や交流を通じて、安心して農業を始められる環境づくりにも取り組んでいます。今回の特集では、実際に鳩山町で週末に農業を楽しむ木村さん、鳩山町明日の農業担い手育成塾の制度を利用して、就農を目指している林さん、高久さんにお話を伺いました。



農地バンクは、耕作や管理が難しくなった農地を「貸したい・売りたい」と考えている方と、農地を「借りたい・買いたい」と考えている方をつなぐ制度です。登録された農地の情報や耕作希望者の情報は、町ホームページや窓口で公開し、利用を希望する方がいた場合には、町が所有者等へ情報を伝達し、マッチングを支援します。詳しくは役場産業振興課までお問合せください。役場産業振興課 ☎ 296-5895

週末に農業

週末に農作業をする生活を始めてスーパーや八百屋で食材を見ると、その生産に関わる方々の大変な労力や愛情を想像するようになりまし。また、安い価格で売られている食材を見ると、消費者としては有難いなど思いながら買わせて頂くものの、これで農家の方々は食べているのだろうか、適正な価格はいるのだろうか、と考えるようになりまし。

鳩山町の畑には都内から友人たちとカーシェアを使って車で来ています。当然道中の車内の会話も楽しいですが、一緒に汗水を垂らし農作業を行い、みなでお昼ご飯を食べ、自然豊かな場所を感じ、最後に汗を流して帰るといっ一連の流れが、最高に幸せで、これぞウェルビーイングだ、という実感が湧く瞬間です。非常に幸福度の高い一日を過ごさせてもらっています。



週末に都内から鳩山町へ通い、友人の畑で農作業を行っている木村さん(左)。取材時は皆さんでタケノコ掘りを行いました。



大きい畑での栽培はやりがいを感じます



はやし たくま
林 巧馬さん

昨年11月から鳩山町で農業を学び始め、現在は夏野菜を中心に野菜を栽培。



元々家庭菜園を楽しんでいましたが、もっと本格的に農業に取り組んでみたいと思い、役場へ相談しました。

特に有機農業に興味があり、役場から町内で有機農業に取り組む高橋さん(写真右)を紹介して頂きました。初めて広い農地で作物を栽培してみると、1人では手が回らないことも多くありましたが、高橋さんをはじめ、地域の皆さんに支えて頂きました。少しずつ品質の良い作物が育つようになりましたが、まだまだ学ぶことがたくさんあります。少しでも早くおいしい野菜を作れるように頑張りたいと思っています。

今後は町内の直売所での販売にも挑戦し、多くの方に自分が育てた野菜を味わってもらいたいと思っています。

新規就農希望の方に土づくりや農産物の栽培技術、農業経営の実践研修を実施し、農業経営者として自立できるための支援を行います。応募資格や詳しい内容については町ホームページをご覧ください。

■問合せ 役場産業振興課 ☎ 296-5895



鳩山町明日の農業担い手育成塾

鳩山町で年々耕作放棄地が増えている現状を知り、「何か地域の力になれないか」と考えたことが農業を始めるきっかけでした。元々土いじりが好きだったこともあり、本格的に農業へ挑戦することを決意しました。

鳩山町では大豆やあんずが特産物として広く知られていますが、ネギをはじめ、おいしい農作物が数多くあります。こうした地域の魅力を町内外の多くの人に知ってもらい、鳩山町の農業をさらに盛り上げていきたいと思っています。



たかく さなえ
高久 早苗さん

4年前に鳩山町に移住。今年4月から鳩山町認定農家の飯島さん(写真右)の下でネギやニンニクの栽培を学んでいる。

鳩山の「味」を伝えたい

